



平成29年7月3日(月)

発行者：防災教育部

(防災士：山崎正弘)

登録No.：00709

## 大雨に十分な警戒を！

すでに報道発表でご存じのとおり、新潟県を含む北陸地方は6月21日に梅雨入りしました。この間、下越地方は曇りがちなが蒸し暑い日が続き、先週末には各室に扇風機の設置と試運転をお願いしたところです。

ところが上越地方は、糸魚川で230ミリ、また能生でも223ミリ(…いずれも24時間降水量…)を記録し、観測史上最大の雨量となりました。このため能生川の堤防の一部が崩れたほか、糸魚川市と妙高市の3棟が床下浸水。上越、妙高、糸魚川の3市は計5752世帯(16131人)に避難勧告を出し、一時約400人が避難しました(新潟日報7月2日朝刊から)。今後、雨雲は下越地方にも停滞するとみられ、雷を伴って1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降るところがあり、24時間の予想雨量は多いところで250ミリに達するという事です。(7月3日 07:00現在)

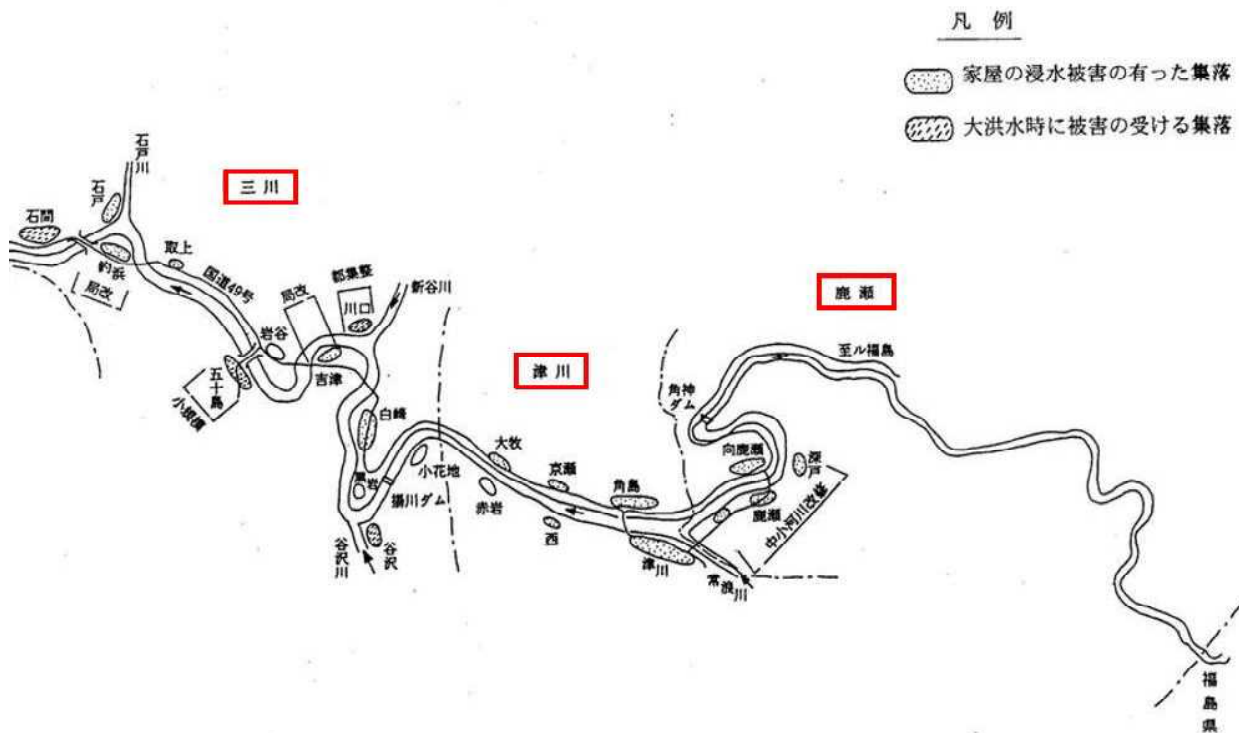
雨の降り方と強さ		出典：気象庁サイトなど
やや強い雨	1時間に <b>10~20mm</b>	 ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。 長く降り続くときは注意が必要。
強い雨	1時間に <b>20~30mm</b>	 どしゃ降り、傘をさしていてもぬれてしまう。側溝や小さな河川があふれることがある。
激しい雨	1時間に <b>30~50mm</b>	 バケツをひっくり返したように降る。山崩れや崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難準備が必要。
非常に激しい雨	1時間に <b>50~80mm</b>	 滝のように降り、傘が全く役に立たず、先が見えない。中小河川がはん濫し土砂災害が発生する可能性が高くなる
猛烈な雨	1時間に <b>80mm以上</b>	 息苦しくなるような圧迫感がある。大規模な災害が発生する恐れが強く、 厳重な警戒が必要

※ 報道機関(特にNHK)では、雨の降り方を伝える際に、上の資料の表現を使用しています。

- (注1) 「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかけます。なお、注意報や警報の基準は地域によって異なります。
- (注2) 猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」が発表されることがあります。なお、情報の基準は地域によって異なります。
- (注3) 表はこの強さの雨が1時間降り続いたと仮定した場合の目安を示しています。この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。
- 表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。
  - この表ではある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

次の資料によると、阿賀野川と常浪川が合流する付近や川が蛇行しているところでは、過去に幾度となく洪水被害が発生していることがわかります。

【阿賀町地域防災計画(風水害対策編) から抜粋】



### 梅雨前線 七五三の法則とは？

梅雨前線は暖かい湿った空気と乾いた冷たい空気がぶつかったところにできます。そして、前線に近いところほど雲は厚みがあって雨が降り、前線から離れれば離れるほど雲が薄くなって隙間ができて晴れ間が出たりするといわれています。気象専門家の間ではよく知られている話ですが、この時期、梅雨前線からの距離が300kmまでは雨が降りやすい。そして、500kmまでは曇り、700kmまでは晴れ間が出やすいといわれています。次の資料も参考にしてください。青(00km)が雨を表していてグレー(500km)が曇り、そして、オレンジ(700km)が晴れることを表しています。ちなみに新潟～東京間が約300kmですから、気象予報図を見たときの目安にしてください。この現象を「梅雨前線七五三の法則」といいます。



★ 8時15分に、阿賀町にも【土砂災害警戒情報】が発表されました。生徒に安全指導の周知を！